

支所長よりひとこと

5月半ばにラマダンも終わり、一時帰国からニアメに戻ったら2日連続で雨が降ったのには驚きました。6月に入りまだまだ暑さは続いています、少しずつ季節が移ってきているのを実感しています。

さて、4月2日にモハメッド・バズム新大統領が就任し、新たな政府も組閣され、5月26日にはウフムドゥ・マハドゥ首相により今後5年間の全体政策案が国会で提示されました。7つの軸を掲げた政策は、治安対策等に係る議論の後、大統領選挙で確執のあった野党議員退席の中、深夜に129票の賛成多数で採択されました。以下にニジェール政府が取り組む様々な政策の一端をご紹介します。

① 治安確保と社会平安

マリ、ブルキナ、チャドの国境方面で続く武装集団の襲撃に対する治安対策は何にも増して重要課題です。年17%の国防予算を維持、治安部隊の実行能力強化を図り、ディファ、マラディ、タウア、ティラベリ州等各州に相当数部隊を展開。今年に国連安保理非常任理事国の2年目。その立場も活用してサヘルの平和と安定に国際社会の協力を得るとしています。

② よいガバナンスと制度の強化

ガバナンス・制度強化では、憲法の尊重、分権、政治・経済・行政のガバナンス確保と公正でアクセス可能な司法、報道の自由、経済成長8%を目指し経済の構造転換、公共支出の効率化など。

③ 人的資本の開発

とりわけ大統領就任演説でも治安対策とともに危機感を持って強調されたのは教育システムの改善です。年平均20～22%の予算を割り当て、教育へのアクセス向上、藁葺き教室の撲滅のための大規模な教育インフラ整備、女子の就学促進・就学継続、そのための寄宿舎の整備、教員の適正配置と能力強化、初等については読み、書き、基礎的計算能力、中等では特に理数科教育を強化。教育分野のデジタル化を促進するなど、野心的な政策を掲げています。

その他、人的資本の開発の軸では、保健医療施設・サービスの充実、母子保健、栄養、COVID-19感染症対策、飲料水へのアクセス向上、複数村落給水方式のシステム化、生活環境改善のための廃棄物急増との闘い等。



藁葺き教室で学ぶ生徒たち

④ 地方部の近代化

地方部の近代化の軸では、人口の80%、GNPの40%を占める農牧業の近代化。生産チェーン、保存、加工、流通、資金動員に投資。イニシアティブ3N(ニジェール人によるニジェール人の食料増産)の経験に基づく生産性改善。質のよい投入財、灌漑設備の建設・リハビリ、サービス統合プラットフォーム(Maison de paysan)を全国展開。マイクロファイナンス実用化、食料栄養安全保障基金による零細プロジェクトへの資金供給等。

⑤ 経済インフラ開発、⑥ 経済潜在力の開発

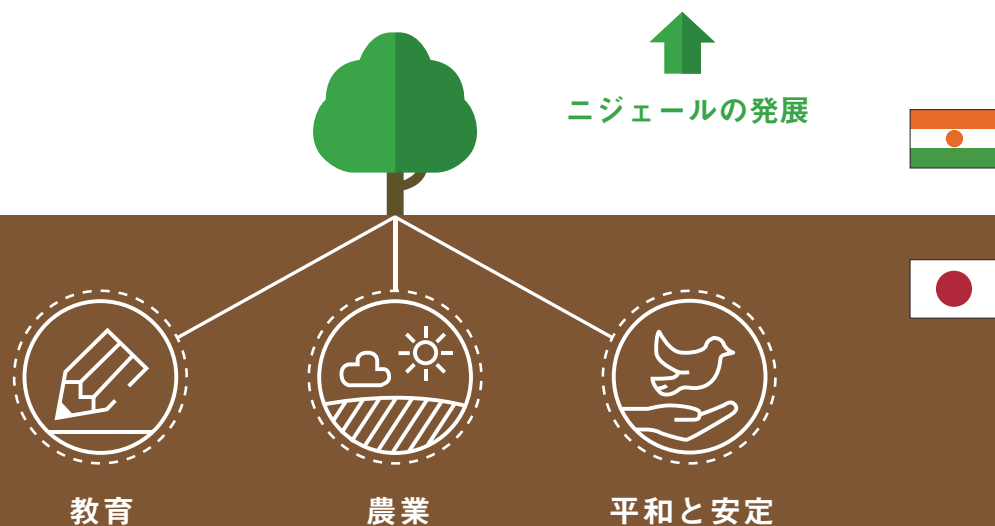
国内の道路整備とともに、コトヌ-ニアメ-ワガドゥグ-アビジャン間鉄道とナイジェリアに通じる鉄道、ドライポートの建設検討。マラディ、タウア、ザンデル空港の近代化。2026年までに電気へのアクセスを30%に。そのためカンダジ水力発電の供用、サルカダムナ発電所(200メガワット)第1フェーズの建設、2026年までに少なくとも太陽光の割合を15%に。情報通信では、国内のモバイルと高速インターネットの浸透。地上デジタルテレビの導入、光ファイバーの拡張、eガバメントの促進を通じたガバナンスの近代化。「デジタル・ニジェール開発政策2021-2030」の実施。カンダジダム建設や「1州1産業」プログラムを通じた農牧業のバリューチェーン開発。ビジネス環境改善、中小企業振興、投資保護、新たな工業地帯と免税ゾーンの創設、国内観光・手工芸の振興等。とりわけ石油開発が期待されており、始まっているニジェール(アガデム)-ベナン(コトヌ)間パイプライン建設継続。石油セクターでGNPの25%、税収の45%、輸出の68%、雇用の12%を目指しています。

⑦ 脆弱層への連帯と社会経済への統合

脆弱層への連帯と社会経済への統合の軸では、生産的な社会的保護ネットの具体化、女性の自立支援、子供の保護、若者の雇用創出、災害リスクの削減等による、貧困の削減、中間層の強化。

このような政策を、サヘル地域の不安定な治安、干ばつや洪水をもたらす気候変動、COVID-19の影響の中遂行していくべく国民の協力を呼びかけています。

JICAは、特に教育のアクセス・質の向上、農業振興、平和と安定への貢献を軸に、引き続きニジェールの開発に協力していきます。

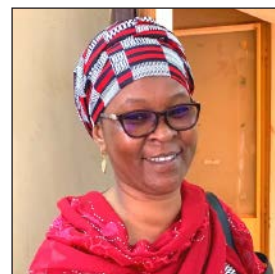


ニジェール支所の3本の軸

プロジェクトPASVAリポート(再起動)のお知らせ

こんにちは、PASVA総括の小川慎司です。3月18日深夜のコロナ禍による空港閉鎖直前間一髪の帰国から1年2ヶ月ぶりにニジェールへ戻ってきました。その間、長井宏治副総括の離職による交代があり、また業務調整・研修担当の小川奈穂子さんのご逝去というたいへん悲しい出来事がありましたが、今回はその後任の町慶彦副総括、業務調整・研修担当の森永太一専門家という2名の新しいメンバーと3名での派遣です。ひと月程度の短い期間ですが、その後続いて派遣される予定の2名の専門家の方々のためにも、この間でできる限りのプロジェクトの実施体制の立て直しを進めていきたいと思っています。

現場に帰ってきて振り返ると、よくこの1年以上の間プロジェクトが専門家不在で動いてきたなあとあらためて驚く思いですが、その日本人不在の逆境の中でかえって強いオーナーシップを発揮し、現場の活動を滞りなく継続してくれたカウンターパート(C/P)達とプロジェクトスタッフに感謝するとともに、それを遠隔で支えてきた担当専門家の皆様、受け入れ態勢を迅速に整えてくださった支所の皆様にこの場を借りてお礼申し上げます。1.SHEPアプローチの政策的重要性に関する広報 SHEPアプローチに関するPASVAの事例も交えた紹介が、農業省の機関誌に載りました。PASVAプロジェクトC/Pチームのリーダー的な存在になっているKadidjaさんが中心になって寄稿してくれたようです。どうもありがとうございました。(PASVA 小川 慎司 専門家)



Boubacar Kadidjaさん

Makiayi da Manomi
Notre but, contribuer à l'atteinte de l'objectif "Faim Zéro"
Magazine d'information sur l'Agriculture et l'Élevage / N°004 de 1^{er} trimestre 2021 / Site web : www.agricultureeleveage.gov.ne

Les femmes au coeur de la sécurité alimentaire

12 Magazine d'information du Ministère de l'Agriculture et de l'Élevage / 1^{er} trimestre 2021

Politique agricole

Système de Vulgarisation Agricole au Niger
Vers une agriculture orientée sur le marché

Mme Boubacar Kadidja, directrice de la vulgarisation agricole (DVA)

Au Niger, l'horticulture connaît une véritable expansion eu égard aux multiples appuis apportés la plupart des projets de développement pour l'amélioration et la diversification des productions horticoles. Toute fois au vu des potentialités non encore exploitées dont dispose le pays, il urge de renforcer les efforts dans la structuration de la filière, la mise en places des infrastructures de stockage et transformation ou mieux, innover dans la commercialisation des productions. L'approche Smallholder Horticulture Empowerment & Promotion (SHEP) ou Autonomisation des Petits Producteurs Horticoles est une approche de l'agriculture orientée vers le marché. C'est un outil pertinent permettant d'apporter une réponse à la lancinante problématique de la commercialisation de nos productions agricoles. Elle se distingue des autres approches connues par :

- La connaissance permanente du marché
- L'établissement de liens étroits entre les agriculteurs et les autres acteurs du marché des produits agricoles
- L'activité agricole est à juste titre un business; il y a donc lieu de produire stratégiquement en tenant compte de ce que l'on sait du marché probable de ventes, en termes de quantités, de qualité requise, des prix et de leurs fluctuations en fonction des périodes.

Ainsi, pour accompagner les producteurs horticoles à innover dans l'approche de mise en marché, le Gouvernement du Niger a bien voulu étendre l'approche SHEP réaffirmant ainsi sa volonté d'appuyer les exploitations familiales dans l'amélioration d'un mieux-être. L'approche SHEP est mise en œuvre à travers le Projet d'Amélioration du Système de Vulgarisation Agricole (PASVA) sur une période de cinq (5) ans de mars 2019 à mars 2024 par le

Partage de la vision SHEP avec un groupement des horticulteurs

Conduite de l'étude du marché

市場思考型農業(SHEP)、PASVAの概要(プロジェクト目標、アウトプット等)、活動の様子が紹介されています。詳しくは下記をcheck!
<http://www.agricultureeleveage.gov.ne/wp-content/uploads/2021/05/MakiyayidaManomipourimpression.pdf> より

～ティラベリ州におけるSHEP活動から得た教訓～

私は本プロジェクトにおいてティラベリ州のSHEP活動を担当しています。コロナの影響により日本人専門家は現地渡航ができず、これまで現地の報告を基に活動を進めてきました。ティラベリ州は首都ニアメの郊外に位置し、住民の大半が農業を営み、地元の商人に野菜を販売し現金収入を得ております。本活動では農家グループに対して、市場向け作物の生産と販売をするため、一作期を通して研修を毎週行っています。その研修のなかで農家自身が市場調査及び卸売業者との商談を行い、農家自身が市場向けの作物及び品種、販売のタイミング、販売量など情報の把握、また、取引相手との良好な関係を構築することで、農民グループは野菜の高値での販売を図りました。

ニジェールではイスラムのラマダン(断食月)の期間中に野菜の価格が高騰する傾向があります。活動対象のグループは市場調査とニアメの卸売業者との商談結果をもとに、タマネギをラマダン期間まで乾燥保存させて、高値で販売することにしました。しかし、販売時期になり、なぜか農家は商談を行ったニアメ市場の卸売業者には売らず、別の地元商人に売ってしまいました。幸い、ラマダン中に売ったため、比較的高値で売れました。しかし、私は商談先とは別の商人に販売したことが腑に落ちず、メールやWhatsAppなどを駆使して、質問を何度もしましたが、現地の普及員からは「勘違いをして商談先とは別の商人に販売してしまった」との回答のみしか得られませんでした。

今年の5月に入り、私はようやくニジェールに出張することができ、治安の関係から活動現場には行けないものの、ニアメの事務所で現場を担当する普及課長に会い、業務の打ち合わせを行いました。その際、上記のタマネギの販売に関して尋ねたところ、彼は「農家は一般的に現金を十分に持たず、カツカツの生活を送っており、その状況で家庭にて治療費、教育費、食料代、日用品費など、急な出費が必要になると、農産物を近場の商人に売ることがある。このグループの農家も同様に個々の家庭事情から地元商人に販売をしまい、卸売業者との取引時に出荷量を確保することができなかった。」とのことでした。他方、普及局長は本課題に対して「農家が十分に理解していなかったため、より丁寧に説明する必要がある。また、商談時における取引量を少し低めに設定し、農家の手元に余剰が出るようにしておき、農家個人の急な支出に備えておく。さらに、取引量の分はグループで早めに回収し、倉庫に確実に保管する。」と、課題を次回以降の教訓として、前向きにとらえていました。

私としては上記の結果はプロジェクトが意図する結果には至らず残念であると感じた一方、貴重な教訓が得られました。やはり、現地で対面による話し合いを行うことは、率直な議論がしやすく、新たな課題の発見もあり、大切な気づきにつながります。今後も限られた滞在期間の中で、多くの人と対面で議論を丁寧にしていきたいと思っております。また、願わくはいち早くニジェールの治安が良くなり、現場で実際の活動を見に行きたいものです。(PASVA 町 慶彦 専門家)



農家グループによる市場調査

みんなの学校：住民参加を通じた教育開発プロジェクト・フェーズ2

2016年より始まったみんなの学校プロジェクトがいよいよ6月に終了を迎えました。今月号は先月号に続き、プロジェクトの成果について専門家のみなさんから寄稿をいただきました。

支所便り読者の皆さま、こんにちは。先月号では、「みんなの学校」プロジェクトが開発した『質のミニマムパッケージ(PMAQ)』が初等教育省による語学と算数の基礎学力向上プログラム(PMN)に取り入れられ、PMAQ-PMNとして実施されたことをご紹介しました。さらに、PMAQ-PMNがわずか2カ月程度の活動だったにもかかわらず、子どもたちの語学力の向上に大きく寄与したことにも触れました(まだ5月号をお読みではない方、是非ご一読ください!)。今月号では、算数に関してどのような成果が見られたかについて取り上げたいと思います。

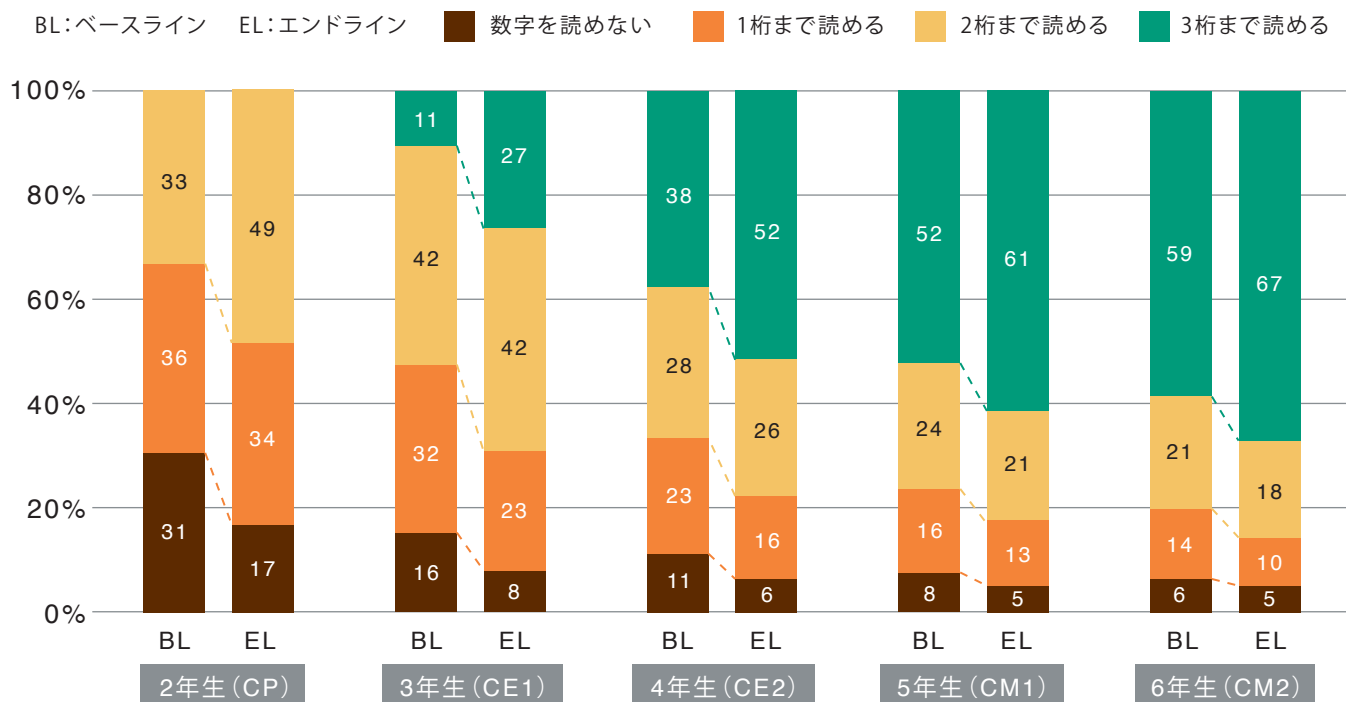
PMAQ—PMNの算数の結果

ニジェールの子どもたちの多くは基本的な数学力が十分に獲得できていません。そこでPMAQ-PMNは、子どもたちが基礎的な四則計算(足し算・引き算・掛け算・割り算)ができるようになること、その前提として不可欠な数を読むようになることを目指しました。その結果、PMAQ-PMNを実施したニアメ市とタウア州の公立小学校約3,700校、77万人において、短期間の介入にもかかわらず、次のとおり基礎学力を向上させることに成功しました。

① 数字の認識

グラフ1は、数の認識が出来る生徒の割合を示したものです。「1桁まで読める」とは1桁の数字は読むことができるものの、例えば10、79などの2桁は読むことができないことを示し、「2桁まで読める」とは2桁までは読むことが出来るものの、例えば365、609などの3桁の数字は読むことができないことを示しています。このグラフが示す通り、介入前のテストでは、ニジェールの子どもたちは数字を読み取ること

グラフ 1

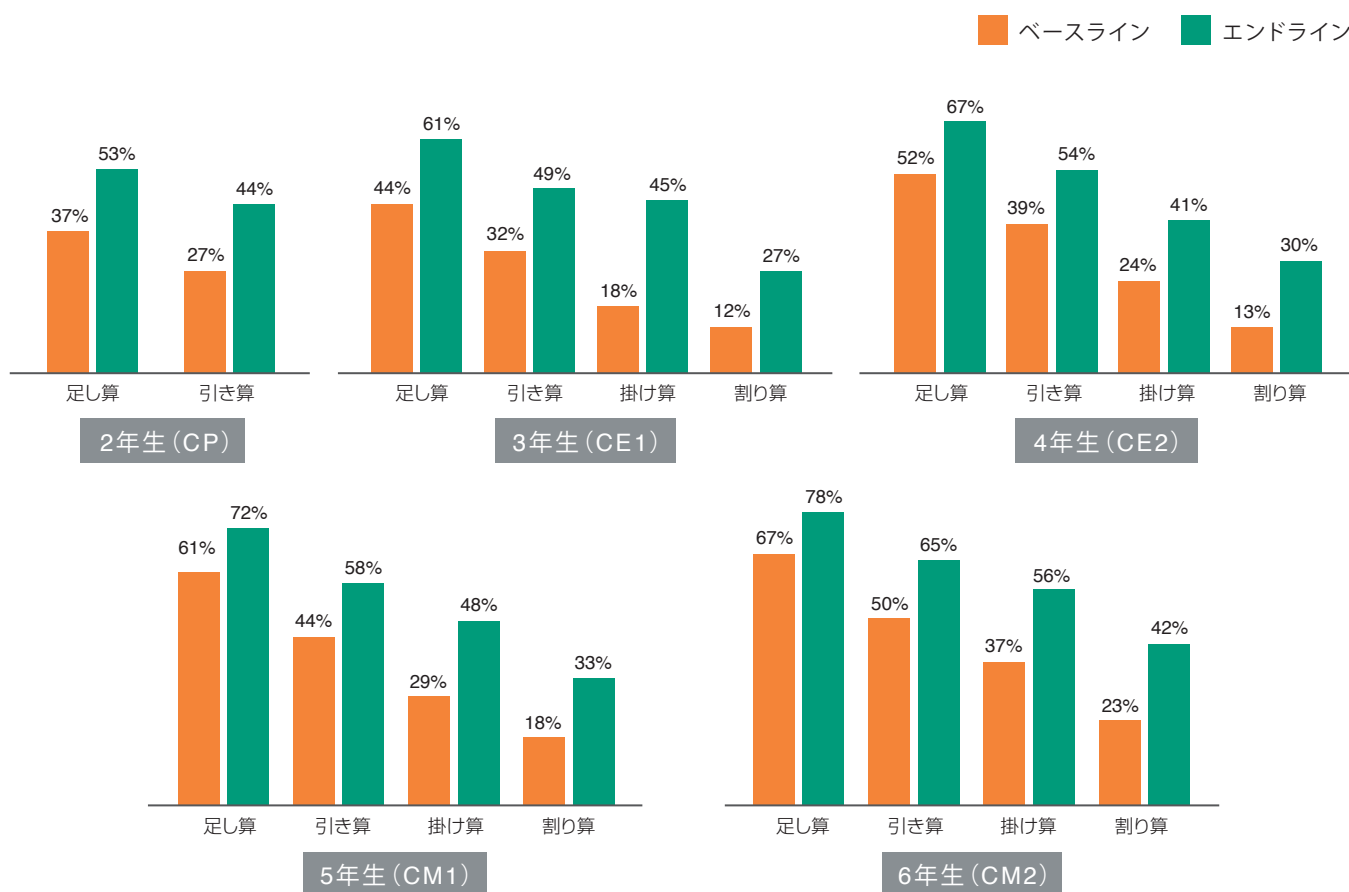


が困難でした。例えば、小学校2年生の31%は数字を全く読むことができず、小学校6年生においても3桁の数字が読める生徒は59%だけでした。PMAQ-PMNの介入後には、小学校2年生で数字が読めない生徒は31%からおよそ半分の17%に改善するとともに、2桁の数字が読める生徒は33%から49%へと大幅に改善しました。また、3年生から6年生までのすべての学年で、3桁の数字を読むことが出来る生徒の割合が増加しました。

② 四則計算

グラフ2は、学年ごと、四則計算の種類ごとに計算ができる生徒の割合を示したものです。数の認識と同様に四則計算に関しても、介入前に行ったテストでは子どもたちの計算能力不足が明らかでした。全ての学年で引き算が出来る生徒は50%以下であり、小学校高学年の5・6年生になっても、掛け算ができる生徒の割合は40%未滿、割り算ができる生徒の割合は30%未滿の状態でした。これに対して、介入後のテストでは、全ての学年で四則計算ができる生徒の増加が確認できました。まだまだ100%には遠く及びませんが、77万人の子どもたちの計算能力の向上に寄与できたことを嬉しく思います。

グラフ 2



先行プロジェクトのフェーズ2として2016年に始まった当プロジェクトですが、2021年6月に終了を迎えることとなりました。フェーズ2においては、初等教育における『質のミニマムパッケージ』の普及、また中等教育における機能する学校運営委員会モデルの全国普及が無事行われました。4年半に渡り、ご指導、ご支援いただきましてどうもありがとうございました。

(みんなの学校プロジェクト 専門家一同)

支所便り2016年7月号から不定期でお届けしている、京都大学アフリカ地域研究資料センター・大山修一教授の「ニジェールでゴミを集める日本人」シリーズ第30話。今回は知られざるシロアリの世界について寄稿いただきました。

前号に続いて、ゴミをまいて植物の生育をうながす緑化について話しをします。わたしがこの緑化実験を開始したのは2003年のことですから、時がたつのは早いもので18年まえのことになります。当時も、現在も資金の乏しい研究者ですから、なるべく安価な方法で効果的に実験をしようと計画を立てました。まず、5m四方の小さな土地の荒廃地をフェンスで囲み、そのなかに農村の敷地にたまったゴミを運び込みました。農村のゴミですから、そのほとんどは家畜の糞や食べ残した草本の飼料、脱穀作業で出てきたトウジンビエの稈や穂軸など有機物が主で、ごく少数のビニール袋や古着などが含まれていました。

荒廃地を囲んだフェンスの内部に3区画を設け、2m四方のA区画とB区画にはそれぞれ50kg(12.5kg/m²)と5kg(1.25kg/m²)を投入しました。C区画は荒廃地のまま放置し、対照区としました。

A区画のゴミの厚さは10cmほどで、B区画に投入したゴミは十分ではなく、まだらになりました(写真1)。

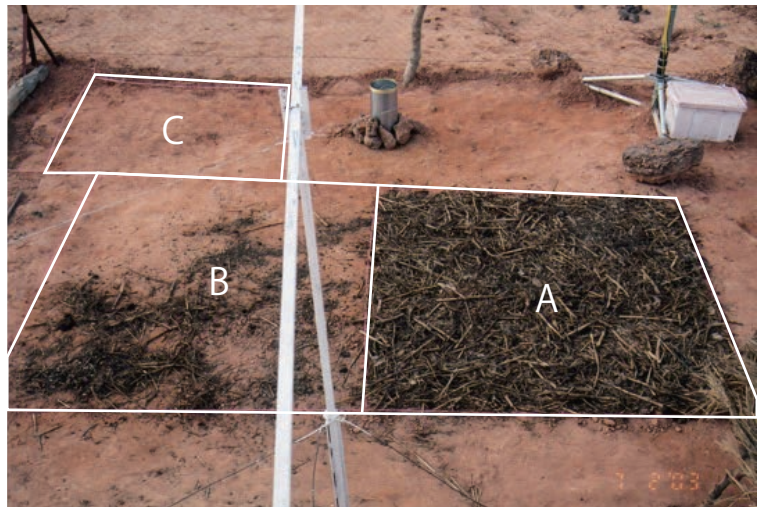


写真1 荒廃地へのゴミの投入(2003年7月2日)

ゴミを入れて2日目にシロアリが集まって来ました。シロアリはピチピチと音をたて、みずからの唾液で砂や粘土の粒子をつなぎあわせ、すべてのものを包んでいこうとします。そして2週間が経過すると、飼料だったわらやトウジンビエの稈、樹木の幹も、ウシの糞も、すべてが砂や粘土の細かな粒子で包まれていきます(写真2)。この細かな粒子でつなぎあわされたものは、シェルターと呼ばれます。わたしは毎日、このサイトへ通い、シロアリの活動とゴミの変化を観察しつづけました。いまになると、このときの興奮こそがわたしの研究の原点だったようにも思います。

このシェルターを指で押すと、簡単にシェルターはこわれます。シェルターを構成する粘土や砂の粒子の結合がゆるいためです。シェルターの内部には蟻道があり、多数のシロアリが動いています。シロアリは



写真2 シロアリが餌をシェルターで包んでいく(2003年7月17日)

強い太陽光や乾燥、高温に弱いため、シェルターがつぶされると、突然のシェルターの崩壊にシロアリたちは大騒ぎになります。シロアリには天敵が多く、クロアリにとってシロアリは大好物です。シェルターの崩壊ときにクロアリがシロアリを見つけると、すぐに捕まえ、巣に持ち帰ろうとします。シロアリの兵隊アリが最前線に立ち、襲いかかるクロアリに応戦しようとしています。多数のクロアリが集まってくると、組織力にまさるシロアリでも、とてもかないません。

また、鳥もシロアリを大好物とします。村で飼っているニワトリが元気ないとき、村びとは小さなシロアリ塚をたたき割り、シロアリをニワトリの餌にし、滋養強壮に使うこともあります。



写真3 シェルターをこわすと、蟻道があり、多数のシロアリが見えます(2003年7月19日)

シロアリは太陽光や乾燥、高温に弱く、そして天敵が多いのですから、砂や粘土の粒子でシェルターを作らなければ、みずからを守ることができないのです。クロアリは餌を探索して、あちこちで動きまわっています。牛糞をはじめすべての餌がシェルターで覆われ、なかではシロアリが餌を食べています。その場で餌を食べることもあるでしょうが、働きアリたちは餌をアリ塚へ持ち帰り、待っている女王アリや子ども、大勢の仲間たちに餌をプレゼントするのです。

わたしが投入したゴミはシロアリにとっては餌であり、ゴミを積み上げた実験場は餌場です。働きアリは休みなく、アリ塚へ餌を持ち帰るのです。シロアリたちの住み処であるアリ塚はどこにあるのか分かりません。この実験場所からもっとも近いアリ塚までは70mほどの距離がありました。小さいシロアリにとって、70mという距離は、ものすごい遠いのだらうと思います。地下のトンネルで、多くのシロアリが餌場とアリ塚を往来しているのです。



写真4 牛糞もシロアリのシェルターで囲まれる(7月22日)

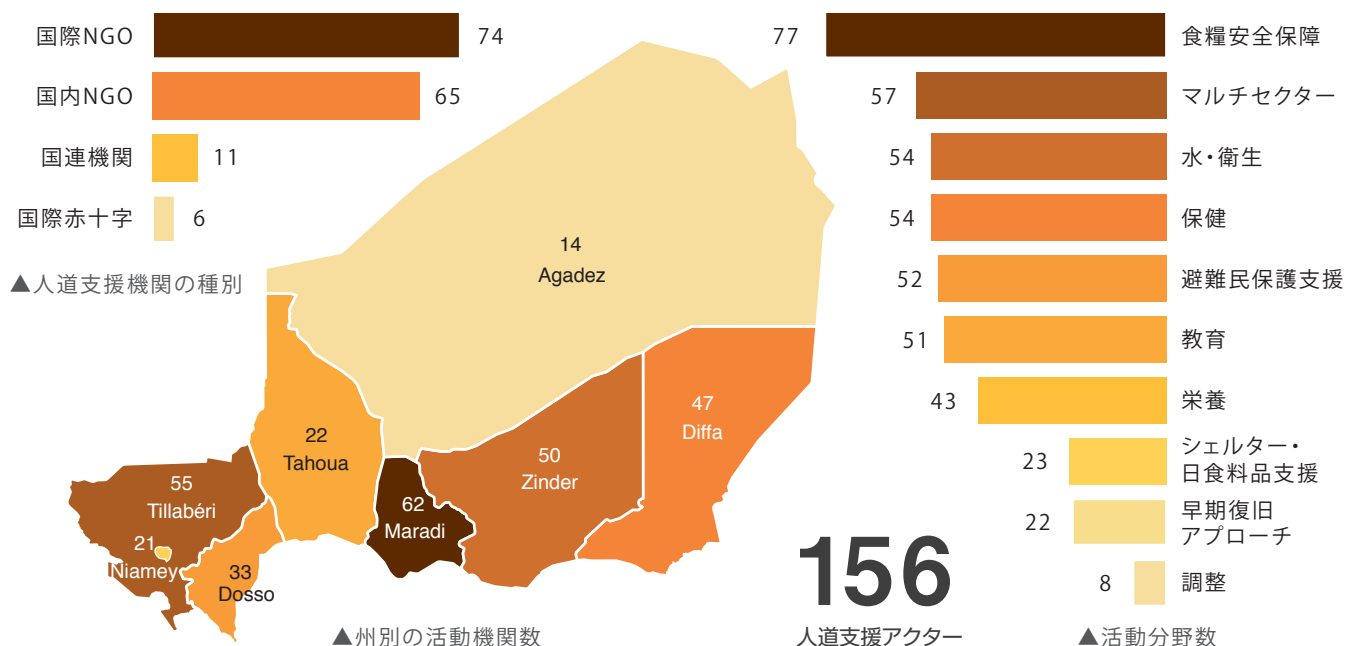
シロアリの専門家であるLee and Woodは『Termites and Soils』(1971年)のなかで、こう書いています。「アフリカの乾燥地で地上を支配しているのは人類かもしれないが、地下を支配しているのは確実にシロアリだ」と。太陽光や乾燥、高温に弱く、外敵の多いシロアリが地下の世界を支配しているのです。シロアリは女王アリを頂点として、働きアリ、兵隊アリと階層分化していますが、いまだ謎に包まれた生き物です。ニジェールの乾燥地においても、弱い生物が地下の世界を支配しつづけているというのには、それなりの合理的な理由があるのです。



今月の支所活動：人道支援機関の動きと IOM 連携について

5月某日、支所に国連人道問題調整事務所(UNOCHA)から会議の招待状が届きました。不定期で行われている本会議は、国連機関、国際NGO、JICAを含む開発機関、大使館など、人道支援・開発に関わる幅広いステークホルダーが一堂に会し、情報共有・交換を行います。支所便り今月号はニジェールにおける人道支援機関の動きについて紹介したいと思います。

ニジェールにおける人道支援機関の種別、州別の活動機関数、活動分野数



人道支援機関は社会の緊急ニーズに対して迅速な対応を行います。近年、ニジェールはマリやブルキナファソ、ナイジェリアとの国境付近で武装組織によるテロ活動が発生しており、この結果、多くの国内避難民が生じております。住むところを追われ、身一つで知らない土地で暮らす避難民に対して、人道支援機関は食糧支援やシェルター等の提供のほか、メンタルケアを含む医療サービスや職業訓練、避難キャンプでの学校運営など幅広い活動を行っております。もともと居住していた地域に戻るためには、根本的な課題解決が求められますが、国境を越えてやってくるテロ組織に対しては、1国の対応だけでは不十分なケースもあり、国を跨いだ地域全体での協力が必要不可欠となります。

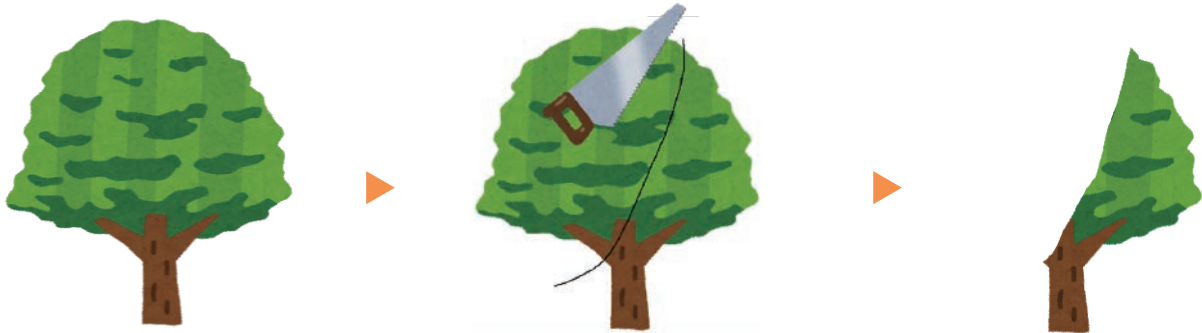
私たちJICAニジェールの3つの軸の一つである「平和と安定」分野において、5月19日にセネガルの首都ダカールで、サヘル地域(セネガル、チャド、ニジェール、ブルキナファソ、マリ、モーリタニア)を対象とする「新型コロナウイルス流行下における国境管理にかかる情報収集・確認調査」実施のため、国際移住機関(IOM)と協力締結が発表されました。テロや銃・麻薬等の不法取引といった安全保障上の課題解決に向けて、国境管理は同地域の平和と安定の重要な鍵となります。特にコロナ禍においては、治安の側面に加え、国境地域の住民や移民等の健康状態等、人間の安全保障の観点からも、適切な国境管理の必要性が増しています。日本政府がTICAD7にて提唱した「アフリカの平和と安定のための新しいアプローチ(NAPSA)」を具体化する取り組みとして、また、今後もサヘル地域の平和と安定に向けて、様々なアクターとの連携を模索していきたいと思っております。(山本 主税 企画調査員)



突風

我が家の庭には大きな木が何本かありますが、以前から不自然な伐採のされ方が気になっていました。

本来の形は多分こうだったのが ⇒ こう切られて ⇒ この状態



絶妙なバランスを保っているのは気になっていましたが、雨期前の突風が吹いたある日、娘から慌てた声で「家の前の木が折れた」と電話。帰宅すると家の屋根すれすれに10メートルはある大きな枝部分が落下していました。下の写真は折れた部分を通路に移動した状態。折れた木は幹から上がありません。幸い、被害は庭の植木だけでした。普段の生活でおかしいなと思ったことは早めに対処しましょう。

(企画調査員 大出理恵)



ご意見・お便りはこちら！ ni_oso_rep@jica.go.jp
過去の支所便りは[こちら](#)もしくは右の QR コードから
編集長：小畑支所長 / 編集・デザイン：山本企画調査員

